つながる

小中一貫教育だより
学校教育課・教育センター版
令和２年１月31日　　№16
（小中一貫教育推進だよりから　通算№87）
十日町市教育委員会学校教育課

南中学校区いじめ見逃しゼロスクール集会　　南中学校　※Ｐ６で説明

『かけがえのない出会い』

学校教育課学事係　髙澤　剛

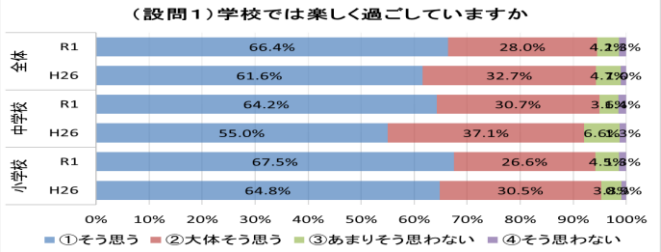
「尊敬する人は？」と尋ねられたら、小学校６年の時の学級担任を思い浮かべる。５年生の時は学級担任との心の溝を感じ、荒れていた（と思われる）クラスに転任の先生が担任になった。初めて赴任する学校、そして最終学年の担任が務まるのか生意気にも不安に感じたものだが、不思議と先生との距離が縮まるのに時間はかからなかった。昼休みはもちろん放課後も野球やバスケットボールをして楽しんだ。今思えば、私たちが帰宅した後に授業準備やほかの業務をこなしていたのだろう。楽しい思い出だけではない。ある終学活の時に教室の一番後ろに座っていた私は、先生の話を聞くこともなく、ひたすら先生の似顔絵を描いていた。案の定、先生に見つかり前に呼び出され、「上手く描けているからランドセルに貼って帰りなさい」。この時の光景は今でも鮮明に憶えている。他にも数多く叱られた記憶はあるが、自分が行った行為を素直に受け入れることができ、後味の悪さは残らなかった。それはなぜか？心から先生を尊敬していたこと、そこには信頼関係があったと一方的に思っている。小遣いを集め、先生が好きだったジャイアンツの帽子を先生の子どもにプレゼントしたこともある。小学校卒業後、直接会うことはなくても年賀状のやりとりは続いた。ある年に先生からの年賀状が途絶えたが、私はその後も数年間出し続けた。十数年が経ち先生が亡くなっていたことを風の便りで聞いた。「あの時もらった帽子、今ピッタリだよ」などと必ず一言添えてくれた年賀状を今でも大切に保管している。恩師と出会えたことは私の人生の中で最も大きな出来事の１つであり、我が子にも同等、いやそれ以上の『かけがえのない出会い』があることを期待したい。

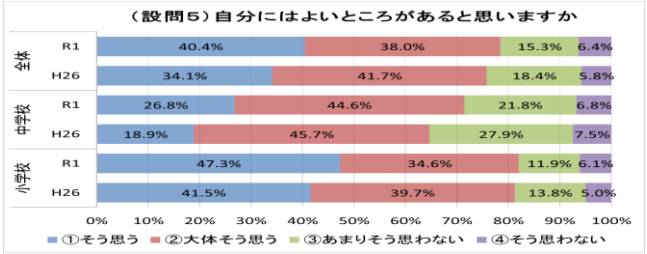
小中一貫教育

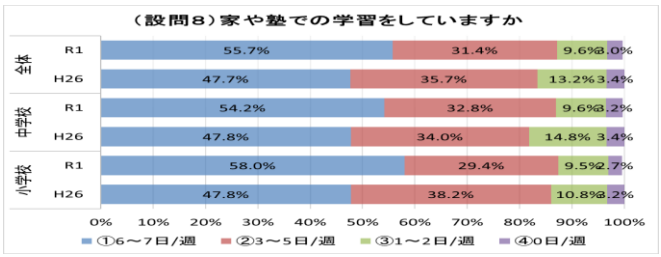
■小中一貫教育取組評価アンケート結果から（速報）

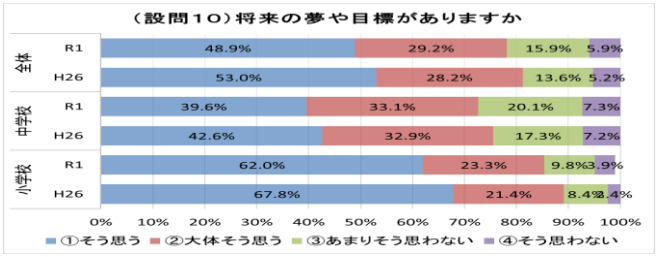
令和元年度の小中一貫教育取組評価アンケートのご協力ありがとうございました。結果については、第２回小中一貫教育計画訪問時に市全体及び各中学校の傾向をお伝えしているところです。ここでは、特徴的な市全体の傾向を紹介します。

【児童生徒アンケート】





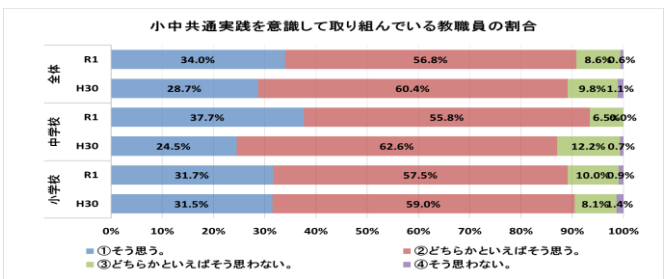


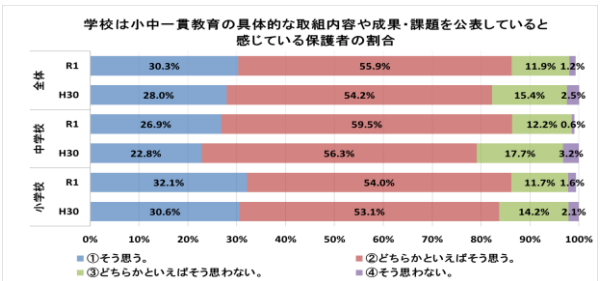


成果：アンケート実施時からの経年比較では、アンケート項目１「学校では楽しく過ごしていますか」、項目５「自分にはよいところがありますか」、項目８「家や塾での学習をしていますか」について肯定的評価が伸び、特に中学生の強い肯定的評価が伸びてきています。このことはH30 年度との比較においても伸びが見られ、各中学校での取組の成果と考えています。

課題：項目 10「将来に夢や目標がありますか」については、肯定的評価が経年比較で減少し、H30 年度との比較においても減少しており取組の難しさが現れています。新学習指導要領の実施を踏まえ、キャリア教育や全教育活動の中での取組が必要と考えられます。

【教職員・保護者アンケート】



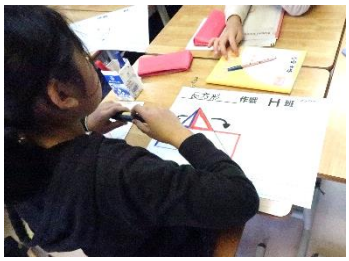


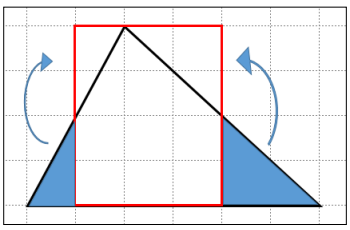
成果：教職員アンケート項目の「小中共通実践を意識して取り組んでいるか」については、肯定的評価が H30 年度との比較で増えており、特に中学校での強い肯定的評価が伸びています。また、保護者アンケート項目の「学校は小中一貫教育の具体的な取組内容や成果・課題を公表しているか」については、H30 年度との比較で肯定的評価が伸び、特に中学校の伸びが大きいです。教職員の意識の高まりによる取組が保護者に伝っていると考えられます。

課題：教職員アンケート項目の「『個別の指導計画』の作成・活用や改善」の意識が小中学校ともに減っています。校内体制で全職員の意識を高める必要があります。

■「自己有用感」を高める日々の授業づくり

～第２回小中一貫教育計画訪問資料（学力向上）より～





A さんが考えた方法

【学力向上計画訪問での公開授業から】

M小学校では、５年算数「図形の面積」で三角形の面積の求め方を考える際、児童一人一人に事前に「自分なりの求め方」を考えてくるよう指示しました。児童はそれぞれ、既習事項である「長方形や平行四辺形の面積の求め方」を活用し、三角形を等積変形する方法を考えてきました。それを授業者は集約し、似たような方法で考えている児童をグルーピングし、「求め方の共通点」を探るよう投げかけました。これらは、<u>自己有用感を高めるための「居場所づくり」「絆づくり」の手立て</u>であると言えます。

A さんは、本単元の学習に興味をもち、右の図のような方法を考えました。「底辺÷２×高さ」となるこのような方法を考えたのは、このとき A さんだけでした。本時では大きく取り上げることはできませんでしたが、その後「A さんがこんな方法を考えたんだけど、これはどうかな？」と全体に投げかけることで、学習の深まりや自己有用感の高まりが期待できます。実は A さんは、この学習が始まる直前まで登校渋り傾向だったのですが、本時では、学習に取り組む A さんの真剣な表情と意欲的な姿が見られました。このような学習を経て、学校生活への意欲が高まり、学級内での居場所や絆を実感していけることが期待できる一場面でした。

■【再掲】「自己有用感」を高める（引き出す）具体的指導の実践例報告

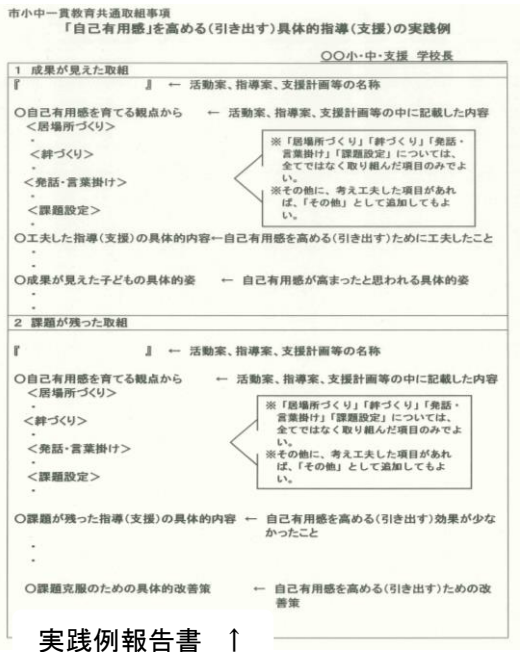
ぜひ、多くの方からの報告をお願いします！！！

学校全体や学年・学級の取組、個人の実践等　気軽に報告してください。

このことについて、「つながる NO. 14」でお願いしたところです。来年度の教職員全員研修会は、一斉ではなく中学校区毎に行う予定です。内容は、平成 29 年度から取り組んできた共通取組事項「自己有用感」を高める取組についての成果と課題を協議し、共有し合うものにしたいと考えています。

そのためには、昨年度・今年度と学校、教職員の皆さんがどのように取り組んだかを話し合う上での貴重な資料となります。

夏の苅宿教授の講演から学んだことを授業や活動にどう生かしたか、「居場所づくり」「絆づくり」をどんな場面でどう仕組んだかなどの実践を報告してください。成功例だけでなく、課題や難しさを感じた実践でも結構です。


市小中一貫教育共通取組事項
「自己有用感」を高める（引き出す）具体的指導（支援）の実践例
○○小・中・支援　学校長
1　成果が見えた取組
『　』 ← 活動案、指導案、支援計画等の名称
○自己有用感を育てる観点から ← 活動案、指導案、支援計画等の中に記載した内容
＜居場所づくり＞
＜絆づくり＞
＜発話・言葉掛け＞
＜課題設定＞
※「居場所づくり」「絆づくり」「発話・言葉掛け」「課題設定」については、全てではなく取り組んだ項目のみでよい。
※その他に、考え工夫した項目があれば、「その他」として追加してもよい。
○工夫した指導（支援）の具体的内容←自己有用感を高める（引き出す）ために工夫したこと
○成果が見えた子どもの具体的姿 ← 自己有用感が高まったと思われる具体的姿
2　課題が残った取組
『　』 ← 活動案、指導案、支援計画等の名称
○自己有用感を育てる観点から ← 活動案、指導案、支援計画等の中に記載した内容
＜居場所づくり＞
＜絆づくり＞
＜発話・言葉掛け＞
＜課題設定＞
※「居場所づくり」「絆づくり」「発話・言葉掛け」「課題設定」については、全てではなく取り組んだ項目のみでよい。
※その他に、考え工夫した項目があれば、「その他」として追加してもよい。
○課題が残った指導（支援）の具体的内容 ← 自己有用感を高める（引き出す）効果が少なかったこと
○課題克服のための具体的改善策 ← 自己有用感を高める（引き出す）ための改善策

実践例報告書　↑

＜連絡事項＞

・実践例報告書の原簿は次のフォルダにあります。　職責別＞学校間共通＞小中一貫教育＞共通取組事項＞各中学校区フォルダ内（ファイル名(例):道徳の実践_Δ中、Aさんへの支援_0小）

・紙面の提出は必要なし。電子データを上記フォルダに置く。

・報告期限は、令和２年２月末

教育相談班より

■不登校　小学校が昨年度同時期比で同等、中学校は大きく減少

年間30日以上不登校により欠席した児童生徒の割合は、令和元年12月末と平成30年度同時期比、平成30年度末比を見ると、**小学校で同等ですが増加の傾向があり、中学校で大きく減少傾向**という状況にあります。

不登校出現率（令和元年度12月末時点）
- 小学校　0.59%⬇（平成30年度12月末0.61%、30年度末0.74%）
- 中学校　2.10%⬇（平成30年度12月末2.73%、30年度末2.89%）
- 小中校　1.11%⬇（平成30年度12月末1.33%、30年度末1.47%）

一人一人の状況（不登校リスク等）を丁寧に分析し、新規不登校者を出さないように校内での情報共有・支援会議を充実させ、家庭と協力して取組を進めていく必要があります。また、子どもの居場所づくりや自己有用感を高める取組を進めるといった校内支援体制の充実や、不登校の状況改善や自立支援に向け関係機関との連携を強化していくことが大切です。

今後も子どもたちの小さな変化に目を向けること、気になる子どもへはきめ細やかに組織としてスピード感をもった対応を進めることが大切です。そのために**「不登校予防のための早期対応マニュアル（令和元年８月改訂版）」の積極的な活用**をお願いします。

■いじめ　認知件数、小中学校とも昨年度同時期比で増加

12月現在でのいじめの認知件数は、昨年度と比べて小中学校とも増加しています。これは、積極的ないじめの認知を行った結果であり、小さないじめも早期に発見し、対応してきている結果と捉えています。態様は、冷やかし、からかい、いたずら、仲間外しなどが多く見られ、大人の目が届かない時間帯や場所で発生していることが多いのが特徴です。中にはＳＮＳ（ライン）による誹謗中傷など、いじめが表面化しづらく重大な事態につながる恐れのあるものもあり、今後も未然防止、早期発見、即時対応のため、常日頃から小さなことでも情報共有しながら、生徒指導体制の構築と見直しを図っていく必要があります。

平成30年度12月末（30年度末総件数）→令和元年12月末
小学校45件（52件）→69件　　中学校45件（54件）→49件

なお、以下の点についてご協力をお願います。

- **県の通知で示されたチェック表を活用して、『学校いじめ防止基本方針』の見直し改善を行う。**
- **学校ホームページに「学校いじめ防止基本方針」を掲載する。**
- **月例報告で「いじめ認知ゼロ」の学校は、必ず学校だより等で保護者に周知する。**

学習指導班より

学習指導班事業　事業評価から

今年度の学習指導班事業の事業評価にご協力いただき、ありがとうございました。「来年度も継続を希望する」とご好評いただいた事業、「改善を求める」とご意見をいただいた事業、どちらもあり、学習指導班一同で拝見しました。結果を真摯に受け止め、学校現場のニーズや負担感等を考慮しながら、来年度もより一層先生方と児童生徒のためになる研修機会の提供に努めていきます。

【令和２年度の学習班事業の予定】

１：新規事業（予定）　＝　**学級経営支援事業**

〇市内全小学４年生と中学１年生に対する WEBQU の実施

〇WEBQU やその他の QU 調査に基づく事例検討会での指導・助言

〇学級づくりにかかわる研修会

２：廃止事業

（１）英語ボランティアガイド養成講座

〇市役所企画政策課事業へ移管統合します。

（２）プログラミング教育研修

〇研修は実施しない予定ですが、小学６年理科「電気の利用」での指導に向けて、㈱アーテック社の「アーテックロボ」をレンタルする費用を市教委で予算付けします。

【令和２年度のエキスパート教員研修について】

以下のお二人の先生を、令和２年度のエキスパート教員として委嘱させていただきました。

来年度の研修にぜひご期待いただき、積極的なご参加をお願いいたします。

〇中条小学校：吉田　真也　先生（情報教育、情報モラル）

〇下条中学校　池田　繁人　先生（数学）

Web 配信集計システム診断問題　第3回の結果について

Web 配信集計システムは、今年度から年３回の実施となりました。先日、今年度最後となる第３回の結果がまとまりましたので、市全体の状況をお知らせします。

【小学校】

学年	４年		５年		６年	
教科	国語	算数	国語	算数	国語	算数
市平均（点）	10.0	10.2	10.3	10.0	9.5	15.4
県平均（点）	10.5	10.7	10.7	10.2	9.9	15.1
県市比	95	95	96	98	96	102

【中学校】

学年	１年			２年			３年		
教科	国語	数学	英語	国語	数学	英語	国語	数学	英語
市平均（点）	15.1	5.4	14.1	14.9	8.8	10.1	14.7	6.3	12.3
県平均（点）	14.8	6.2	14.6	14.6	8.9	9.8	14.4	6.7	12.3
県市比	102	87	97	102	99	103	102	94	100

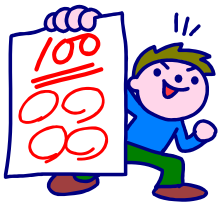
ご覧のように今回の結果では、小学６年生の算数、中学１～３年生の国語、中学２年生の英語で、県平均を上回りました。形式が大きく変わり、記述部分が多くなった今年度の Web では、児童生徒が回答に苦戦した様子も見られたことと思います。新学習指導要領の全面実施を間近に控え、児童生徒の思考力・判断力・表現力を高める指導がより一層求められています。今年度の Web 診断問題を終わったものとせず、いろいろな場面で有効に活用していくようお願いいたします。

新年度４月の２つの学力テスト・調査に向けて

３学期に入り各校では、今年度の学習のまとめに向けて取り組んだり、準備を始めたりしていることと思います。

例年通り、新年度４月早々には、NRT 学力テスト（小学２～６年生、中学１～３年生）と全国学力・学習状況調査（小学６年生：国語・算数、中学３年生：国語・数学）が予定されています。

年度当初からいろいろな場面でお話させていただいてきたように、特に NRT 学力テストでは、小・中学校とも３年続けての成績ダウンとなりました。児童生徒の「学力」という場合、数値で測ることのできるのは「学力」の一部であると考えます。その学習の学び方を学ぶ楽しさや学習意欲なども含めて、真の学力であると言えます。しかしながら、数値の部分、つまり結果が求められることもまた確かです。



各校で、今年度４月の NRT の結果を踏まえ、児童生徒の実態に応じて適切かつ確実にご指導いただくようお願いします。

学校教育課・教育センター事業のお知らせ　～2・3月～

日程	内容【会場】	備考
2月 13 日(木) 14:30～16:30	第3回学力向上推進会議 【川西庁舎第一研修室】	講師:市教育センター指導主事　他 対象:研究主任、学力向上担当者
2月 19 日(水) 14:30～15:50	英語・外国語活動授業力養成講座 【川西庁舎第一研修室】	講師:前市教育センター嘱託指導主事　小林　豊　様
2月 19 日(水) 15:50～16:30	ALT 学校派遣事業・担当者会議 【川西庁舎第一研修室】	対象:英語教育・ALT 担当者
3月 25 日(水) ～ 4月3日(金)	カナダビクトリア・ホームステイ	対象:市内中学2年生3名 日野社会教育センターと連携事業

【表紙写真の説明】

昨年 11 月に南中学校区で行われた「いじめ見逃しゼロスクール集会」の様子です。今年度は次年度により活動がつながることを意図して、中学校区の５年生が中学校を訪問し、生徒会が中心となって行いました。小学生は緊張しながらも少しずつ馴染み、中学生との距離感を縮めていく様子が伝わってきました。また、いじめ見逃しに関わる各校の取組を紹介し合い、いじめをしない・見逃しゼロの意識を共有していました。

各校区でも同様な取組が２学期に行われ、小中一貫教育を進める上で小中学校の連携と協働による大切な取組となっていることを実感しました。